

平和の日メッセージ

昭和 19 (1944) 年 11 月 24 日、武蔵野市が初めて空襲を受けてから、81 年が経ちました。

当時この地には、ゼロ戦などの戦闘機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所という軍需工場がありました。この工場は東洋一と言われるほど大規模で、米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに空襲は 9 回を数え、工場関係者 200 名以上が犠牲となり、周辺地域でも多くの住民が巻き添えとなりました。

武蔵野市では、この空襲で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代につないでいくために、平成 23 (2011) 年に武蔵野市平和の日条例を制定し、初空襲のあった 11 月 24 日を「武蔵野市平和の日」と決めました。

武蔵野市平和の日条例の前文には、「市民とともに国際相互理解を推進し、恒久平和の実現を目指すことを誓う」とあります。

令和 7 (2025) 年は、先の大戦の終結から 80 年を迎える節目の年でもあります。8 月には、若い世代の平和交流を目的として、長崎に青少年平和交流派遣団を、広島に多摩地域 26 市平和ユース生を派遣しました。

これからも貴重な記憶を風化させず、未来へつないでいくため、今後も若い世代に武蔵野の空襲の歴史や戦争体験の記憶を継承しながら、「戦争も核もない世界を武蔵野から」を掲げ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていく活動を市民の皆様と取り組んでまいります。

令和 7 (2025) 年 11 月 24 日 武蔵野市長 小美濃安弘